別紙２

「市立旭川病院第４次中期経営計画（案）」に対して寄せられた意見と当院の考え方

○意見募集期間：令和5年4月21日から5月22日まで

○意見数：３件（個人３件　団体０件）

※御意見につきましては，原文のとおりを基本としていますが，一部本計画の記載内容に基づき修正している箇所があります。

<table>
<tr><th>番 号</th><th>寄せられた意見</th><th>意見に対する当院の考え方</th></tr>
<tr><td>1</td><td>　これからは予防医学が益々，重要になるという視点から，整形外科の復活・拡充，リハビリ専門医を中心とした理学・作業療法士，言語聴覚士などのスタッフの充実，やや変化球ではあるが鍼灸師なども設置し，総合的なリハビリケアを行える仕組みへの積極的な投資が良いと判断します。全体の患者数が減っても何時の時代も予備軍は沢山いるもので，それらの人達を沢山定期的にチェックすることで，人間ドックなどの受診率を上げ，必要があれば指導・リバビリなどのサポート体制があり，その上で病気となれば病院としての本来の機能があります。これからは患者さんの数を増やそうとしてもなかなか厳しいものと考えられる（人口が減る，患者さんは沢山の病院から選択できる）ことから，多角的な視野から総合的なサポートが必要だと考えられます。正直，市立旭川病院のリバビリ規模は寂しい…です。
　入院患者さんが退院目指して？の極小規模な範囲に感じられ，むしろこれからは外来受診だけではなく，外部から積極的にリバビリだけを目的に来院するくらいの沢山の利用者を増やすことをご検討頂けたらと思います。
　余談ですが，出来るならば旭川北都商業の跡地などを利用して，市立旭川病院グループによる看護学校や，各技師育成のための学校を新設して頂き，卒業と同時に希望者などは市立旭川病院に配属されるような人材確保をしながらも，学校運営にあたることでの収益も得ることで相乗効果を狙いたいですね。そうカンタンではないことばかりで，実際実現するには大変なことばかりであるのも承知していますが，時代の変化に対応していく必要性は感じます。</td><td>　リハビリ体制の充実については，これまで不在であった言語聴覚士を令和4年度に確保するなど，体制強化を図ったところです。
　今後もいただいた御意見を参考としながら，健康診断や人間ドックの充実，人材確保に向けた様々な取組を通じて，地域医療に貢献し続ける病院を目指してまいります。</td></tr>
<tr><td>2</td><td>上川中部医療圏の総人口は既に減少傾向にあるが，75歳以上の受診率が他の年代と比べ高い事から，医療需要は令和7年頃迄増加するものと見込まれる。その後は減少に転じ，令和17年以降は減少が加速していくことが予想される。

土日祝，年末年始（毎年12月29日～翌年1月3日迄）の急病当番医を新聞記事に載せてほしい。

※下線部は本計画記載内容に基づき，原文の「増加」から「減少」に訂正しています。</td><td rowspan="2">　前段の御意見は本計画の記載内容に沿うものでありますことから，本計画（案）に賛同いただいたものと受け止めさせていただきます。
　土日祝日，年末年始の当番医の記事掲載に関する御意見については，担当している保健所にお伝えします。（現在は一部の新聞紙面及び旭川市医師会ホームページに掲載しています。）</td></tr>
<tr><td>3</td><td>さらに100床の精神科病床を有する総合病院として，通常の精神医療の他，身体疾患を有する精神疾患患者についても，病院全体として診療・フォローできる体制を構築する等，精神医療についても地域において必要不可欠な機能を有している。

土日祝，年末年始（毎年12月29日～翌年1月3日迄）の急病当番医を新聞記事に載せてほしい。</td></tr>
</table>